

先生方の疑問に お答えします

鎌倉女子大学准教授 相澤昭宏

Q1 子どもが夢中になって 取り組む「材」を選ぶ ポイントは何ですか？

日頃からその材が「学習材」となり得るか、日常生活のなかでアンテナを高くしておきたいですね。

そして材の価値を考えるうえでまずは「活動的価値」(p. 1『材の選定のポイントは何ですか?』参照)を考えたいです。1年間、子どもが夢中になって繰り返し活動できる楽しさがあるか、教師自身も興味・関心があり子どもと一緒に楽しめるかどうか大切です。

👉キーワード

「楽しくなければ総合ではない!!」

Q2 どのようにして単元を 立ち上げていくのでしょうか？

子どもの興味・関心を把握しておく必要はありますが、材も単元も教師が決めることが必要です。ただし、子どもたちにはそれを教師から示すのではありません。子どもたちは自分たちで決定したように進めたいのです。そのためには、話し合いだけではなく、実際に体験や活動をしてみる場面をつくったり、子どもの心の揺れを引き起こすような問題場面を設定したりすることもあります。教師の決めた材や活動に子どもたちをどう出会わせるかをよく考えていいますね。

👉キーワード

「問題場面の設定と子どもの心の揺れを大切に!」

Q3 学級ごとに違う材や 単元でもよいのでしょうか？

最初から全員が本気になって取り組んだり、夢中になって活動したりすることはないと思います。また、話し合いや調べ学習ばかりではなかなか本気にならない子どももいます。大切なことは、体験や活動を実際に行ってみることです。体験や活動を通すことで、課題が自分ごとになり本気モードにスイッチが入ると思います。

👉キーワード

「learning by doing! (為すことによって学ぶ)」

Q4 学級ごとに違ってもよいのでしょうか？

総合の教材研究はとても幅広いです。単元構想をする前に、材そのものについての研究はもちろんのこと、この学校やまちで単元化したときにどのような「ひと・こと・もの」と出会えるか、何を学べるのかを探ります。さらに、児童の学習経験や家庭の実態、学校の状況、予算とその捻出方法、等々も同時に考えていきます。そして単元がスタートしてからも、常に子どもの活動を見通しながらさまざまな情報を集めたり、教師自身もその活動に取り組んでみたりすることもあります。

👉キーワード

「教師自身の世界が広がる教材研究! 楽しみながら!!」

Q5 学級ごとに違ってもよいのでしょうか？

学級単元のメリットはたくさんあります。学級で取り組むことで子どもたちの目的や目標の醸成がしやすくなります。そして、活動を進めていく上で機動性も高いので子どもの思いや願いに沿って柔軟に展開できます。また、学級ごとに扱う材や学ぶ内容が違って、育てたい資質・能力は同じであるという共通認識をもって取り組むことで、子どもや保護者にも理解を得られることとなります。学年で材を共通にし、活動や内容は学級ごとに違うという方法もありますね。

学級単元と言っても決して学級担任が一人で背負うのではなく、他の先生方とお互いに支え合い、意見交換や情報交換をしながら進めていくので、教師集団のチーム力が上がると実感しています。

なによりも総合的な学習の時間の活動が学級経営の核になると思うのです。

👉キーワード

「学級単元は学級経営の核になり、職員集団のチーム力を高めることに!!」